

小学校1年生との出会いがワクワクするように

高遠小学校編

学習用iPadを安全に、
楽しく使うために
どんなことに気をつける？

安全に使うって？
「かして！」って
言われたら？
健康を守るには？

1年生が初めてiPadを使う時間。
高遠小学校の1年生の教室にお伺いして
集落支援員の浅利さんによる出前授業です。
GSの松尾さんも丁寧にアシスト。
スクールタクトでのクイズ形式の
問題も出題されて子どもたちは
熱心に授業に取り組みました。



「使い方」ではなく「育て方」としてのICT活用教育

低学年から始めるデジタル・シティズンシップ教育

現代の子どもたちは、生まれたときからデジタル機器が身近にある「デジタルネイティブ世代」です。しかし、「使える」ことと「正しく使える」ことはまったく別の力です。だからこそ、ICTの導入初期段階である小学校1年生から、情報リテラシーの基礎を丁寧に育てることが極めて重要です。

今回の出前授業では、以下のような観点から、iPadを「安全に」「上手に」「自分で考えて」使う力を育てます。

1. 学びの道具としてのiPadの位置づけを明確にする

授業中にiPadを閉じるタイミングを学ぶことで、「聞く」「見る」「考える」といった基本的な学習姿勢を身に付けます。

これは、ICT機器に限らず、鉛筆やノートなど他の学習道具にも通じる「使い方のマナー」を育てることにつながります。

2. 自己管理能力の芽を育てる

「30分で終わる」など、自分で時間を決めて使う経験を通して、自己コントロール力を育てます。

これは、将来的なスマホやゲーム機との付き合い方にもつながる、極めて実践的な力です。

3. 安全・安心なICT活用の基礎を築く

「困ったら大人に相談する」「写真を撮る時のマナー」など、情報モラルの基本を、生活科や道徳と連携しながら自然に学びます。これにより、トラブルを未然に防ぐ力が育ち、保護者からの信頼にもつながります。

💡 ICTとの出会いの授業をお手伝い

この授業は、ICTの操作スキルを教えることが目的ではありません。むしろ、子どもたちがこれからの社会で「自分で考えて行動できる力」を育てるための、人間教育の一環です。

集落支援員の浅利さんは先生方の教室でお伺いして出前授業を行っています。お気軽にお声がけください。

富県小学校編



一人づつiPadが渡されました

富県小学校の1年生は、写真を撮って、マークアップ機能で書き込みをすることに挑戦しました。

担任の原先生から「大事に使ってね。」と声をかけられると大事にiPadを受け取ります。注意事項を確認した後、早速、写真の撮り方をGSの橋本さんから教わりました。



お友だちの写真を勝手に撮ってはいけません。今日は教室にある物を撮りましょう。



書いたり消したり自由に線を描いていきます。とっても綺麗な色合いになっていきます。



思い思いに教室にあるものの写真を撮っています。

撮って、描いて、伝える
低学年から始めるクリエイティブな学び

クリエイティブ性は児童生徒のやる気を引き出します。クリエイティブに表現することで、実社会と学びがつながり、理解が深まります。例えば、写真の撮り方を学ぶことで、子どもたちは見慣れた景色を新たな視点で見つめ、写真を通して感情やストーリーを伝えられるようになります。

この体験はさまざまな学習場面でその効果を発揮していきます。

写真アプリのマークアップツールを使って、身の回りの物をキャラクターにすることができます。顔を描いたり、セリフや説明をつけたり、手書きでイラストを描き加えたり

して、写真にストーリーを語らせてみましょう。

この学習は小学校低学年の児童にとって有効です。

【図画工作】のA表現（1）ア：発想や構想に関する事項には、「造形遊びをする活動を通して、身近な自然物や人工の材料の形や色などを基に造形的な活動を思い付くことや、感覚や気持ちを生かしながら、どのように活動を選択していきます。」として扱うことができます。

また、国語の「しらせたいな、見せたいな」の単元では児童が校内や校庭、あるいは

家庭で「知らせたい・見せたい」ものを探し、iPadで写真撮影を行います。撮影した写真に書き込みを加え、観察メモとして活用し、文章作成へとつなげることができます。これによって、写真を記録・振り返りに活用し、絵が苦手な児童にも支援となります。

（過去の伊那市での実践例が「ICT活用教材DB」に紹介されています。）

Everyone Can Createのブックシリーズは「写真」以外にも「スケッチ」「ビデオ」「音楽」や「小学校低学年向け教師用ガイド」「教師用ガイド」があります。すべて、先生方のブックアプリから見ることができます。